

第71回税理士試験 ラストスパート模試 簿記論 (2021年5月25日 初版 第1刷)

弊社の書籍をご利用いただき、有難うございます。

訂正が出ないようにと努力しておりますが以下の通り、誤りが判明致しました。

ご迷惑をおかけして申し訳ございませんが訂正のうえ、ご利用ください。

なお、弊社HP【「ネットスクール」検索→「読者の方へ」】にて訂正資料等の最新情報を閲覧・ダウンロードできますので、ご利用下さいますようお願いいたします。

2021.5.24

ページ	訂正箇所	誤	正	備考																											
第1予想 (問題編) -A15-	10 退職給付引当金 に関する事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>前期末</th> <th>当期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期末自己都合要支給額</td> <td>116,900,000円</td> <td>129,900,000円</td> </tr> <tr> <td>年金財政上の数理債務</td> <td>43,280,000円</td> <td>50,918,000円</td> </tr> <tr> <td>年金資産の時価</td> <td>36,473,000円</td> <td>40,526,000円</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td>9,900,000円</td> <td>()</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 前期末未認識数理計算上の差異は借方差異であり、当期末における残存償却期間は3年である。当期に数理計算上の差異は発生していない。</p> <p>③ 退職給付費用は人件費として処理する。</p> <p>④ 退職給付引当金について、税効果会計を適用する。</p>	項目	前期末	当期末	期末自己都合要支給額	116,900,000円	129,900,000円	年金財政上の数理債務	43,280,000円	50,918,000円	年金資産の時価	36,473,000円	40,526,000円	未認識数理計算上の差異	9,900,000円	()	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>前期末</th> <th>当期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期末自己都合要支給額</td> <td>107,000,000円</td> <td>123,300,000円</td> </tr> <tr> <td>年金財政上の数理債務</td> <td>43,280,000円</td> <td>50,918,000円</td> </tr> <tr> <td>年金資産の時価</td> <td>36,473,000円</td> <td>40,526,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 退職給付費用は人件費として処理する。</p> <p>③ 退職給付引当金について、税効果会計を適用する。</p>	項目	前期末	当期末	期末自己都合要支給額	107,000,000円	123,300,000円	年金財政上の数理債務	43,280,000円	50,918,000円	年金資産の時価	36,473,000円	40,526,000円	2021.5.24
項目	前期末	当期末																													
期末自己都合要支給額	116,900,000円	129,900,000円																													
年金財政上の数理債務	43,280,000円	50,918,000円																													
年金資産の時価	36,473,000円	40,526,000円																													
未認識数理計算上の差異	9,900,000円	()																													
項目	前期末	当期末																													
期末自己都合要支給額	107,000,000円	123,300,000円																													
年金財政上の数理債務	43,280,000円	50,918,000円																													
年金資産の時価	36,473,000円	40,526,000円																													
第1予想 (解答・解説編) -24-	10 退職給付引当金 に関する事項	<p>*01)① 前期末退職給付引当金 116,900,000円(期末自己都合要支給額) + 43,280,000円(年金財政上の数理債務) - 36,473,000円(年金資産の時価) = 9,900,000円(未認識数理計算上の差異) = 113,807,000円</p> <p>② 当期末退職給付引当金 129,900,000円(期末自己都合要支給額) + 50,918,000円(年金財政上の数理債務) - 40,526,000円(年金資産の時価) = 6,600,000円(未認識数理計算上の差異(注)) = 133,692,000円</p> <p>(注) 9,900,000円(前期末:未認識数理計算上の差異) × $\frac{3年-1年}{3年(残存償却期間)}$ = 6,600,000円</p>	<p>*01)① 前期末退職給付引当金 107,000,000円(期末自己都合要支給額) + 43,280,000円(年金財政上の数理債務) - 36,473,000円(年金資産の時価) = 113,807,000円</p> <p>② 当期末退職給付引当金 123,300,000円(期末自己都合要支給額) + 50,918,000円(年金財政上の数理債務) - 40,526,000円(年金資産の時価) = 133,692,000円</p> <p>(注) = 削除</p>	2021.5.24																											

ISBN978-4-7810-3712-7

C1034 ¥2800E